

## 船舶事故調査報告書

平成21年11月19日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委 員 横 山 鐵 男（部会長）  
 委 員 山 本 哲 也  
 委 員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員負傷
発生日時	平成20年12月5日 10時10分ごろ
発生場所	沖縄県竹富町仲間港 (概位 北緯24°16.3′ 東経123°53.0′)
事故調査の経過	平成21年1月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	旅客船 ドリーム3、19トン 292-47975 沖縄、丸尾建設株式会社 18.46m (Lr) × 3.80m × 1.39m、軽合金 ディーゼル機関、1,030kW、平成19年2月
乗組員等に関する情報	船長 男性 29歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成10年11月19日 免許証交付日 平成18年5月18日 (平成23年5月17日まで有効) 甲板員 男性 35歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成16年11月17日 免許証交付日 平成18年7月5日 (平成23年7月4日まで有効)
死傷者等	負傷 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長ほか甲板員1人が乗り組み、竹富町仲間港に着棧し、日用品を100kg以上載せたカーゴキャリアー（以下「キャリアー」という。）を、右舷側後部客室出入口（以下「出入口」という。）から浮き棧橋に下ろすことにした。 出入口の船内側に渡し板（以下「渡し板A」という。）を置き、出入口と浮き棧橋の間に渡し板（以下「渡し板B」という。）を掛けた。 渡し板Aは、長さ約70cm、幅約55cmのアルミ製で、出入口と甲板の間に段差があるため、登り勾配がついていた。 渡し板Bは、長さ約2.30m、幅約90cmのアルミ製で長さ方向に4枚の板で構成されていた。また、出入口から1枚目の渡し板Bは、長さ約10cm、幅約80cmで出入口の渡し板Aに、一部重ね合わされていた。 キャリアーは、縦約65cm、横約65cm、高さ約1.70mで4個の車輪が装着され、荷物を二段に積み込むようになっていた。 平成20年12月5日10時10分ごろ、船長がキャリアーの前部を引き、甲板員がその後部を押し、キャリアーの前輪（以下「前輪」とい

	<p>う。)が渡し板Aを通り過ぎたところで、渡し板Bが渡し板Aに載らずに離れていたため、両方の渡し板の間に生じた間隙に前輪がはまり込んだ。船長は、腰を屈めてキャリアを両手で持ち上げ、2枚目の渡し板Bに載せようとしたところ、バランスが崩れて、キャリアが転倒し、船長が下敷きになった。</p> <p>船長は、第4腰椎破裂骨折を負った。</p>	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北北東、風力 5	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>キャリアを浮き桟橋に下ろす際、1枚目の渡し板Bが渡し板Aに載っていなかったため、前輪が渡し板Aと渡し板Bの間隙にはまり込んで、キャリアが動かなくなったものと考えられる。</p> <p>船長がキャリアを持ち上げて、前輪を2枚目の桟橋渡し板Bに載せようとしたところ、バランスが崩れたため、キャリアが転倒して船長に倒れ掛かり、下敷きになったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が仲間港に着桟中、キャリアを浮き桟橋に下ろす際、渡し板Aと渡し板Bの間隙に前輪がはまり込んだため、船長がキャリアを持ち上げて前輪を渡し板Bに載せようとしたところ、キャリアが転倒して船長が下敷きになったことにより発生したものと考えられる。</p>	